

私の視察したる米國の幼稚園教育(二)

二

堀 七 藏

アメリカ合衆國では分業が著しく進歩して居りますから教師も各自その能力に應じ専科受持が多いのであります。師範大學などはそれ／＼専門のコースに分れてゐますからこゝを卒業して小學校に奉職する教師は大抵専科であります。免許状も専科が多いので何れも三年か五年間だけ有効なものが多いのであります。この三年又は五年などの期限付免許状は各州によつて異り一様でないのであります。何れにしても期限の來ない中に更に年限を繼續するやう夏季講習などを受けねばなりませんからアメリカの各大學は夏季講習を盛にやり講習を受けるものを大學生として取扱ひ皆熱心であります。これは我が國の如く師範學校を卒業さへすれば無試験で本科正教員の免許状が授與せられ、惡事さへせねばどんなに勉強しくとも終身有効な免許状とは大に異なるのであります。それで前に述べたアメリカの大學生が數多い理由も分りませう。また夏季講習が熱心に行はれる譯が明白となりませう、勿論アメリカでも終身の免許状はありますが、永年勤続して成績の優良なものでなくば與へられないのだと申します。アメリ

カ合衆國では教員の採用は至極簡單なもので、全く女中を雇ふと大差がないのであります。普通年限は一ヶ年で更に繼續して勤めることを約束しなければ自然に退職となる譯であります。どうも學校が多忙で骨が折れるから退職するといふものがあり、女教員が結婚すれば退職となるといふ有様で、教員の出入は中々頻繁であります。ニューヨーク市には公立學校、六六二校その中小學校が六百四校ありますが毎日千二三百人の代理教員を雇ふ想であります。それでニューヨーク市には一年間に約二萬二千件の缺勤教員があり、二萬二千弗以上の俸給拂戻があると申しますから面白いではありませんか。

アメリカ合衆國は時間が非常に嚴格であります。汽車の時間などは左程正確でもありませんが、勤務時間は中々八ヶましいのであります。私がワシントン市の小學校を參觀したとき一寸初めの時間におくられてその學校、豫め前日日本大使館から電話して貰つてありましたから一寸おくれて校長室に入ると、もう校長はその室に居りません。校長室といつても事務室でありますが、そこに立つてゐると一人の女教師が入つて來ました、そしてかけてある時計を見て、表に何か記入して、直に隣の受持教室に入りました。おかしなことをすると思つてその表を見ると、ワシントン市教育局で印刷した教員の出勤簿であります。我が國小學校の出勤簿のやうに只認印を押すだけのものではありません。校長以下全體の教員の姓名が記載せられ、各曜日の欄には出勤時刻を時分と記入するやうになつた表があります。それにかの女教師が出勤時刻を時計を見ながら記入したことが分りました。この表は校長より教育局に報告せら

れまして五分間の遅刻にも俸給が差引かれるのであります。遅刻早退は只記入するだけ、年末賞與にも左程關係がない我が國とは著しい相異でありませう。

またニューヨーク市のワドドライハイスクールを參觀したときにも驚きました。このハイスクールは女兒のみのハイスクールであります。生徒は四千人もゐます。大きな女學校であります。オフィスは女横に控室があつてそこに壁一面に教師の姓名を印刷したカードがあります。教師は出勤するとこのカードを直にその室に備へたる自動印刷時計に挿入するのであります。すると挿入した時刻が正確に印刷せられますから記入の際胡魔化すなどいふことは出来ぬ仕掛であります。退去の時も同様にその時刻を印刷するのであります。これによつて勤務時間が明白となり俸給が定まるといふのであります。かく勤務が頗る嚴格なることは誠に喜ばしいことであります。また一方に弊害を伴ふのがアメリカの教育であります。

勤務時間が嚴格であり、勤務中は責任を以て一生懸命働く所に大なる長所があります。勤務してゐるかゝるのか、分らぬといふやうにだらしないことはありません。煙草をのんだりお茶をのんだり、また雑談して只時間を経過するといふ如きことはアメリカの學校幼稚園にはありません。休養の時間と勤務の時間とは嚴格に區別せられてゐます。従つて午後七時八時まで殆ど何をするともなく、若い娘を小學校や幼稚園に勤務させてそれでよいなどと考へてゐることは毛程もありません。それで勤務時

間中は一生懸命、その職責を盡すのがアメリカ生活の一大特色であります。尤もこれはアメリカに限つたことでなく歐米生活を通じてのことでもあります。その代り勤務時間外には決して働かぬのが矢張り特色であります。休養時間は休養時間でその間に仕事をすることはありません。八時間勤務ならば、只八時間だけ。學校の如く五時間勤務ならば只五時間だけ、余分の時間勤務することは決してありません。また分擔以外の仕事も決してしないのが本則であります。それですら理科の教授でも何でも準備を要する教授は悉く教授時間内に行はれる爲に兎角實驗などが行はれません。それは生徒に行はせて教師が行ふ面倒をさけます。どの授業も時間で俸給が定まるから特別な骨を折るといふが如きことをさける風があります。所謂時間の切賣の思想はアメリカの學校教育で普通のことになつてゐます。特別に熱心といふことは藥にしたくともないといふ風であります。一言にしていへば熱心家もなく大變ななまけ物もないのがアメリカの教育者であります。

二

アメリカ合衆國の教育系統は比較的單純であります。幼稚園が二年で、滿六歳より小學校教育が義務に八年間、更に四年のハイスクールがあつてカレッジや大學に連絡してゐます。新しく小學校七年八年をジュニアハイスクールとしてゐるに對し、四年のハイスクールをセニアハイスクールと區別し、又小學校七八年と四年のハイスクールを含んでハイスクールとなしてゐる所もあります。小學の六年とハイ

スクールの六年。小學の六年には左程問題はありませんがハイスクールの六年の課程にはいろいろの案があります。舊制の二年と四年とを分割して二年二年と三循環するやうな課程案もあり、又三年と三年と二循環する圓周的課程案もあります。一體がアメリカの教育は實用主義のものでありますから、小學校七年八年に於て少くとも職業教育の基礎を施すのであり、ハイスクーリルも大學準備教育をなすコースもあるが職業教育を主とするコースがあることは我が國の中學校の現在とは大變違つてゐます。

ニューヨーク州に於けるハイスクールの生徒の割合を示すと左の如くであります。一年生が全校生徒の四十八%、二年生が二十六%、三年生が十六%で、残の十%が四年生であります。而して全校生徒の僅に八だ%がハイスクーリルを卒業するに止まるし、四%が大學準備の教育を受け、二%が大學に入學する位であります。これで見るとハイスクーリルの生徒は一年で途中退學をなして自活するものが著しく多く、二年三年でも途中退學をなすものが甚だ多いのでありますから、ハイスクーリルで自活能力を養成することが肝要であります。純然たる大學準備をなす我が國の中學校とは全然異なる方針で教育が行はれますと同時に途中退學者が多いから誰にも役立つ教育を施すには階段的に四年で完結する教育を施すよりも圓周的に二年なり三年なりで完結し、更に深入して役立つ教育をなすがよいといふことになりませう。この際三年と三年となすか、二年と二年と二年で三循環をなすかなどが大に問題となる譯であります。アメリカ合衆國ではハイスクーリルの教科課程案の問題が著しく論議せられ講究せられつゝある所以

であります。

茲には幼稚園教育に直接關係がありませんが、ハイスクールのコースを示す一例を上げて御參考に供しませう。シカゴ市のハイスクールでは左のコースがあります。生徒がハイスクールに入學するときどのコースを選定するか、各自の能力長所短所をよく考量してそのコースを選定せねばならぬのであります。茲に於て性能検査が非常に必要となり、この方面の研究 著しく盛な譯であります。兎に角いろいろのコースがあります。

一、一般のコース（ゼネラルコース）。普通教育を受くることを希望しカレッヂに入學せんとするものがとるコースであります。

二、科學のコース（サイエンスコース）自然科學を好み、カレッヂ師範大學などの入學希望者がとるものであります。

三、商業のコース（コンマーシャルコース）書記簿記者速記者等の希望に適するコースであります。

四、事務家のコース。役所の事務員志願者がとるコースであります。

五、工業のコース。工場に勤めるもの、又師範大學工業學校カレッヂ等に入學希望者がとるべきコースであります。

六、社會科學のコース（ソシアルサイエンスコース）。歴史の系統的研究をなし社會の研究を希望する

ものに適するものであります。

七、藝術のコース（アートコース）。藝術に興味を有するものが入學すべきコースであります。

八、家事のコース（ドメステックアートコース）家庭の主婦となり家事經濟に屬する仕事をなす人がとるコースであります。

九、建築のコース 建築家とならんと欲するものがとるコースであります。

以上九コースの外に二ヶ年のコースとして、計算科、速記科、器械製圖科、器械科、電氣及自動車科、家事科、印刷科、農業科等があります。如何に多くのコースがあるか注意して下さい。

三

アメリカ合衆國の教育の一特色は男女共學であります。幼稚園小學校に於ける男女共學は勿論ハイスクールでもカレッヂヤ大學でも男女共學が甚だ多いのであります。

獨逸でも英國でもまたその他のヨーロッパの諸國でも多くは小學校より男女別々に教育をなしてゐます。只大學教育になると男女別に大學を設立することは經濟上許さぬから男女共學が多いのであります。しかし英國などでは特に女子のカレッヂがあつて男女別々に教育をなす所もあります。所がアメリカ合衆國では學校創立時代から經濟上の便宜より男女共學をさせたのであります。移民が集團をなして學校教育を施す場合に男女二校を設立することが出來なかつたのであります。男女の二校を設立するだけの

生徒もなく、また經濟上よりもこれを許さなかつた譯であります。既に述べた如くハイスクールの第二級第三級に屬するものは男女別の教育を施すことが出来ないのであります。男女共學に大なる長所があるといふのではなく、經濟上の關係から止むを得ず男女共學を實施したのであります。また第一級に屬するハイスクール即ち大都市のハイスクールでは多くのコースがあり選擇科目の關係上、プログラムが複雑となるため男女を區別することが出来ないのあります。我が國の中學校の如く單純ではありませぬから男女共學としてそれ／＼何れかのコースを選び必要な學科を學習するといふ方が便宜であります。この場合も男女共學に大なる價值があるのではなく、止むなく男女共學を實施してゐるものであります。それでありますからアメリカでも新しいハイスクールは漸次男女別に設立せられるのであります。それでニューヨーク州では男兒のハイスクール六校、女兒のハイスクール三校に對し、男女共學のハイスクールが八百六十六校もあります。また全米國では男兒だけのハイスクールが三十五校、女兒だけのものが二十七校ありますが、男女共學のハイスクールは實に一萬二千五百一十一校あつたと申します。この統計が多少古いのでありますから現今ではもつと男女別のハイスクールが増加してゐませう。しかし男女共學のハイスクールが多いことはアメリカ合衆國教育の一特色であります。尤も同一學校に男女が共學するといふことで凡ての學科が悉く男女共學といふことではありません。男女共それ／＼選擇科目がありますから或る學科は悉く男兒だけ、或る學科は悉く女兒だけといふ場合が多くあります。タイプライ

ターなどは女兒だけであり電氣科などは男兒だけといふのが普通であります。兎に角アメリカでは男女共學のために弊害が多いことは教育者が等しく認むる所であります。それを我が國などで眞似せねばならぬ如く考へるものがあるならばそれは誠に思はざるの甚だしいものであります。

四

アメリカ合衆國の小學校數は十五萬五千校以上もあり、一九二四年には五歳より十八歳までのものが二九三四萬人以上ありますが、學籍にあるもの二四二九萬あります。そして日々出席者一九一三萬であると申します。それで一九二〇年には五歳と六歳兒童の入學者一九二萬人でその同年齡者の四十一％であります。七歳より十三歳までが一三八七萬で九〇・六％、十四歳と十五歳とが三一二萬人で七十九・九％、十六歳と十七歳は一六四萬人で四十二・九％、十八歳から二十歳までは八一萬人で十四・八％であります。所が之を都會兒童と村落の兒童とに分けると

	都會の學校兒童數	就學歩合	村落の學校兒童數	就學歩合
5—6歳	1,019,943	49.0	902,182	34.7
7—13歳	6,369,136	94.4	7,499,874	87.6
14—2歳	2,458,904	39.3	3,123,937	44.6

であります。之を見ると五歳六歳の就學者は都會に於て四十九％であるが、村落には三十四・七％で遙

に少く七歳より十三歳までの所謂小學校兒童は都會では九四・四%の就學卒で、村落は八七・六%であります。以上の數字は凡て公立學校についての統計で、私立學校は含んでゐないのであります。

兎に角アメリカ合衆國では滿六歳より十四歳までの八ヶ年が義務教育であります。而して村落小學校では自動車で通學する兒童を運搬せねばならぬ處が多く、單級小學校程度のもは少くないのであります。大部分の小學校は設備完全に教授も大なる成績をあげてゐる所が多いのであります。しかしアメリカ合衆國では自然に發達した學校教育であるため、各州によつてそれ／＼異つた小學校教育が行はれてゐますから我が國小學校の如く劃一的なところがないのであります。しかし一週五日授業があつて、土曜日と日曜日とが休日。毎日、朝は八時より午後二時又は三時まで授業を行ふのであります。それで五十都市の平均では一週の教授時數が二四・九四時であると申します。今代表的にニューヨーク市の教科目とその配當時數を表解すると次の如くであります。これは分て表はしてあります。

教科	一年	二年	三年	四年
英語	四九五—七〇五	六一五—七〇五	六一五—六七五	五二五—五五五
算術	九〇—一二五	一八〇—二四〇	一五〇—二四〇	一五〇—三〇〇
圖畫	九〇—一二〇	九〇—一二〇	九〇—一二〇	九〇—一二〇
音樂	六〇	六〇	六〇	六〇

自然研究

六〇—九〇

六〇—九〇

六〇—九〇

六〇—九〇

習字

七五

七五

七五

七五

體操及衛生

二二〇—二三〇

二二〇—二三〇

二二〇—二三〇

二二〇—二三〇

裁縫又は手工

三〇

三〇

六〇

六〇

地理

|

|

|

|

歴史及公民科

|

|

|

|

科 學

|

|

|

|

工場實習(料理)

|

|

|

|

五年

六年

七年

八年

四〇五—五五五

四〇五—五八五

三四〇—四二〇

三八〇—五四〇

一五〇—二七〇

一五〇—二四〇

二〇〇—二八〇

二〇〇—二八〇

九〇—一二〇

九〇—一二〇

八〇—一二〇

八〇—一二〇

六〇

六〇

六〇—八〇

六〇—八〇

六〇—九〇

六〇—九〇

|

|

七五

七五

六〇

六〇

二二〇—二三〇	二二〇—二三〇	二二〇—二三〇	二二〇—二三〇
六〇	六〇	—	—
九〇—一五〇	九〇—一五〇	八〇—一二〇	八〇—一二〇
九〇—一五〇	九〇—一八〇	一二〇—二〇〇	一二〇—二〇〇
—	—	八〇—一二〇	八〇—一二〇
—	—	八〇	八〇

備考 (1) 七八年は一時限四十分を超えざること、その他の學年は三十分を超えざること。

(2) 自由時間は少くとも毎日一時限を設けること。

(3) 圖畫手工は男女共に課すること。

(4) 工場實習は男子のみに裁縫料理は女子のみに課すること。

(5) 女子は三年より裁縫を始め男子は手工を續けること。

(6) 七年より女子には科學の代りに裁縫を課すること。

この表を見ても我が國の教科程表と大變に異なる所がありません。これが各州によつて異り各學校によつて異るといふ有様であります。そして小學校教育の目的は規則で嚴格に規定してあるのではないが、大體に於て「小學校の兒童は生活に必要な基礎を收得するにあるのであります。

シカゴ大學教授パーカー氏は小學校教育の目的として四つの事項を上げてゐます。その第一はグッドヘルスであります。即ち健全なる身體をつくるのが小學校教育の第一の目的であります、第二はひまな時間を無害に享樂し得る能力を養成することであり、吾人人類の一日の生活を考へると八時間睡眠して八時間働けばひまな時間が八時間あります。勿論この八時間と雖も食事をしたりいろいろの雜用をしたりいたしますが、大部分は享樂の時間であり、この時間を無害有益に享樂し得る能力を得ることが各人甚だ肝要なことであり、その能力を得しむるのが小學校教育の第二の目的であります、第三にはグッドウィルで善良なる性情を養ふことであり、所謂徳性の涵養が小學校教育の重大なる一目的であることは申すまでもないことであり、第四がソシアルサーヴィスであります。このソシアルサーヴィスの中にはビジネスサーヴィスとホームサーヴィスと、更にシヴィックサーヴィスの三を含むのであります。ビジネスサーヴィスは自活するに足る職業の素地を養成することであり、ホームサーヴィスは家庭生活をなすに必要な知識技能であります。またシヴィックサーヴィスは自治團體の一員市民として國民として必要な修養をなさしめることでもあります。以上の三つをソシアルサーヴィスと名づけ小學校教育の目的としたのであります、これが我が國小學校教育の目的に「生活に必須なる知識技能を得しむること」を上げてあると同様であります。

パーカー氏は以上四つの目的を達する爲小學校の教科課程も之に順應せしめねばならぬ。それで小學

校の教科を五大別することが出来ると述べてゐます。第一は本質的技能を養成する教科で、話方、讀方、算術書方綴方がそれでありませう。是等の教科は何人も現代の生活をなすには或る程度の素養が必要でありますからこれが小學校の教科として本質的なものであります。

第二は休養的趣味的教科として唱歌・遊戯にゲーム、面白いお噺、自然研究例へば園藝とか動物飼育。是等は凡て職業的のものではなくひまな時間を無害有益に費すことを得る趣味的のものとして教授をするのであります。また繪畫美術も趣味的教科であります。それでは是等ほどの生徒も一樣な程度に學習せねばならぬものではなく各人の趣味に應じまち／＼で結構であります。或るものは自然研究に興味を有し或るものは音樂に、また或るものは繪畫美術にまた或人はゲームに興味を有すといふのが普通であるべきであります。多趣味は勿論結構でありますが只ひまな時間を無害に興味を以て生活し得ればよいのであります。それで學習の程度も一樣でなくとも一向差支がないといふのであります。

第三は社會生活の研究であります。ホームや地方團體、都市、國家に於ける生活を研究させるのであります。簡單より複雑に、近きより遠きに及ぶのでありますが原始的な生活より現代の生活に進む方針であります。現代生活を一足飛に理解することは困難であるから。アメリカインディアンの生活エスキモの生活等から出發して日本支那、それから瑞西などの生活様式を研究して現代の歐米生活に及ぶといふ方針をとるものが多いのであります。

第四は保健の方法と活動であります。栄養や食物の價值等に注意し休養的活動社會生活の研究より生ずる個人衛生や公衆衛生、更に積極的健康増進の方法を體得させる衛生の教授や體操は是であります。

第五は文化的道徳的觀念及び習慣、例へば禮儀自制敏速社會奉仕等の實行を促すこととあります。

以上はバーカー氏の意見の大體であります。アメリカ合衆國の小學校教育はバーカー氏の如き先覺者などの意見に基いて新しい教育が行はれてゐる所が多く、更にボイスカウトやガールガイド、少年赤十字など學校内外の教育機關があつて比較的進歩した教育が行はれてゐます。殊に圖書館による教育も大に發達して居りますが茲には小學校教育の大略を述べることに止めて愈々幼稚園教育の實際を述べることにいたします。